

『パン用小麦「ゆめかおり」の産地化支援』

硬質小麦「ゆめかおり」は県内産のパン用小麦として需要が高まっており、峡北地区を中心に作付面積が増加しています。しかし、実需者が求める供給量に達していないことや、タンパク質含有率を上げることが課題となっています。

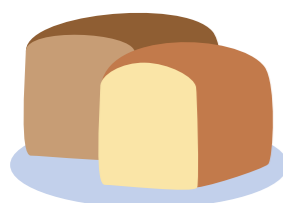
昨年度、実需者を交えて栽培講習会を開催したところ、お互いの意見や要望について、活発な意見交換が行われ、実需者からは「ゆめかおり」への大きな期待が寄せられました。

このため、普及センターではJA梨北、総合農業技術センターと連携し、収量・タンパク質含有率を向上させる取り組みを実施しています。具体的には、小麦の茎立期（3～4月）と出穂期（4～5月）にほ場ごとの生育診断を行い、生産者に対して生育に応じた追肥指導を行っています。



栽培講習会の様子

今後も、継続した栽培指導により収量・タンパク質含有率の高位平準化を図り、「ゆめかおり」の産地化へ向けた支援を行っていきます。



茎立期の生育診断

モモ「夢みずき」の安定生産に向けた取り組み

峡東地域普及センターでは、山梨県果樹試験場が育成した県オリジナル品種のモモ「夢みずき」を新たな有望品種として地域に定着させるために取り組んでいます。

「夢みずき」は、大玉で着色に優れ糖度も高いですが、他の品種と比較して形状がやや変形する果実（通称：いびつ果）が発生しやすいことや、着色が良いことにより早もぎになりやすいなどの課題も確認されています。

そこで、高品質なモモを安定的に生産できるよう現地実証ほを設置し、管内JAと協力しながら変形果の発生低減に向けた摘果方法や収穫適期の目安となる判断基準の検討を行っています。

峡東地域における「夢みずき」の平成29年度出荷量は4.3tですが、既に1万本を超える苗木が管内に



収穫期を迎えた「夢みずき」



「夢みずき」の出荷目合わせ会

導入されており、今後は成園化するほ場面積が急速に増加することが予想されています。「夢みずき」に対する生産者の期待が高まる中、関係機関との連携を強化し、引き続き安定生産に向けた取り組みを支援していきます。

次代を担う農業後継者の育成支援の取り組み

峡南管内では水稻や野菜、果樹の生産が行われていますが、富士川町では販売農家の7割が果樹農家で、中でもブドウは販売額全体の3割を占める主要な品目となっています。しかし、生産者数や生産量は年々減少しており、新規生産者の確保育成が課題となっています。そこで当センターではJAふじかわと連携し、栽培初心者や今からブドウ栽培を始めたいと考えている方等を対象に「ぶどう栽培基礎セミナー」を開催しており、今年で3年目の取り組みになります。



現地ほ場でのセミナーの様子

このセミナーは、退職帰農予定者も参加できるように休日に開催し、5月には房作り、6月には摘粒作業をピオーネのほ場で行ったところ、実家の農業に従事している方や農繁期のみ手伝っている方など12名が参加しました。また、シャインマスカットは峡南でも栽培面積が拡大しており、受講者からの要望に応じて、1、2年生苗木植付けほ場で、X字型長梢剪定およびH型短梢剪定栽培に向けた若木の管理技術の講習も行いました。受講者の多くが新たに苗木を植え付け、規模拡大を進めています。



若木管理の指導の様子

自給的農家が8割を占める峡南地域では、退職帰農者は地域の重要な担い手であり、今後も農協と連携しながら農業後継者の育成に向けて支援をしていきます。

都留市における「果樹栽培の新たなスタート」

都留市では、平成28年11月の「道の駅つる」オープン以来、農産物の売上げも順調に推移していることから、農家所得の更なる向上を目指すため、平成29年補正予算で「高収益作物導入事業」（市単）を創設し、都留市内では栽培が殆どないブドウ、モモ、スモモ、ベリー類の栽培実証に取り組んでいます。普及センターでは、定期的に生育状況の確認を行い、実証ほ場の栽培管理を行っている地域おこし協力隊員に栽培技術指導を行っているほか、7月10日には、果樹栽培に興味のある農家を対象とした果樹講習会を開催しました。今後も地域適応性を確認しながら、わかりやすい果樹栽培マニュアルを作成し、果樹栽培希望農家への周知を行い、果樹の担い手を確保するとともに、生産拡大に取り組んでいきます。



都留市での果樹講習会(7月10日)



地域おこし協力隊によるモモの栽培管理